

上条

報告

第62号
平成26年7月

甲州市教育委員会
☎32-5097

上条を歩いていきます。

最近、上条を歩いていきます。

伝建保存地区のエリアを定めるためですが、畑や山林・原野も歩いていきます。

山村集落の場合、背景の山の稜線で切ったり、河川で切る例が多いのですが、上条地区の場合、北側には上条峠が控えています。そこまでエリアにすると比較的距離があり、峠に至るまでにやや緩やかな地形が続きますので、下から眺望したときにみえない土地が発生します。

そのため、「観音堂付近からみえる畑地」を目安にしています。

西側については山林が迫っていますし、南側は金剛山の境界が悩ましいところ。ゆっくりと、地形図を片手に歩いていると、今までみえなかった風景が見えてきます。いいものもあり、よくないものもあります。いいものも、よくないものも、合わせて上条地区の景観です。伝統的建造物群保存地区の制度は、そういった現状について、最低でも維持し、結果的には向上させるためにあります。

今後もしばらく上条に通います。あやしく思われても、ご理解よろしく願います。

上条地区の北側

集落の北側は、上条峠方面に向かう道に沿って果樹園が続きます。屋敷構えと同様に、等高線に沿って雛壇状に畑地を造成していますので、東西に長い地割となります。道から離れると遊休農地となることが顕著にみられる場所でもあり、山林や原野のままの土地もあります。

大峰沢からの水路が、中村勝雄さんの果樹園の中を通っています。集落内だと三面コンクリ水路ですが、石積み水路のままです。中村一仁さん宅の裏側の畑地は、なだらかな傾斜地に石垣がみられますが、お話によると土石流があり、その後土石流による発生材で石垣を積んだとのことでした。



畑に残る素朴な石垣。



果樹園と原野の境。



一仁さん宅の背後の畑地。



畑を貫く石積みの水路。

上条地区の西側

西側の北には、竹ノ入沢の砂防堰堤用の道が新設されています。ガードレールが白くてどうしても目立ってしまいます。畑地は北側と同じく等高線に沿って造成しており、南北に長い地割です。畑地の果樹園より西は山林になり、その境付近には獣害防止のネットが設けられています。

中村裕司さん宅よりも下の畑は、様子がだいぶ変わってきます。幹線農道沿いに柵田のような果樹園が展開し、かつて水田だったことがわかります。畑地と山林の間には、公図では道が介在していますが、道上（と思われる位置）にネットが張られています。ネットの向こう側では、鹿が盛んに警戒音を発していました。



道に設置された獣害防止ネット。



ネットの外には巨石がゴロゴロ。

金剛山

金剛山は、三つの宗教施設（観音堂・金井加里神社・福蔵院）が集まる聖地で、上条地区のランドマークです。しかしながら、斜面は原野が多いため草や木が伸び放題で、特に夏場はうっそうとした状況が目立ちます。斜面に接する畑地も、遊休農地が増えています。

金剛山の尾根筋の小路は、福蔵院からの石段も含めてよい景観が残っています。石段を上りきり、尾根上にてたとき正面にみえる金井加里神社は、山村集落にふさわしいこじんまりとした社ですが、県指定文化財の本殿は小規模ながら大変優雅な名建築です。金井加里神社を巡るこの小路を歩いて集落に入ることにより、気持ちが引き締まるのだろうと思います。



金剛山の東側斜面。

金井加里神社参道の石段。



金剛山の西側斜面。

金剛山の尾根道。正面に金井加里神社。

金剛山の付根に位置する観音堂は、集落やコミュニティの中心地。背後に二子山がみえます。



西側畑地からみた古民家の妻壁。



北側の果樹園からみた集落。



田ノ入からみた民家群。



田ノ入からみた民家群。



観音堂からみた西側斜面の土坡の畑地。



竹ノ入沢砂防堰堤への新道から見下ろす集落と金剛山。

上条がきれいに見える地点 ～「眺望地点」からの風景～

風景がきれいに見える場所を眺望地点として定めることにより、眺望地点を意識して景観形成を進めることができます。

地区内をうろろ歩き回っているとき、「いい風の風景だ」と感じた場所がいくつかありました。

地元の方々してみると、普段の生活の中で慣れた風景かもしれませんが、よそからくる人たちにしてみると、今まで見たことのない感動もの風景だったりすることも多々あります。

そんな風景を紹介します。